



2016年度台湾日本語文学国際学術研討会

日本語文学研究 **と** 社会との連携

2016年12月17日(土) 08:50~17:50

輔仁大学国璽樓2階国際会議ホール(新北市新莊区中正路510号)

基調講演

- 09:00~09:50 リテラシー史研究の意義と可能性 佐倉 由泰 (日本東北大学教授)
- 10:00~10:50 東京の言語景観と留学生から見た多言語対応状況
—2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて— 西郡 仁朗 (日本首都大学東京教授)
- 10:50~11:40 グローバル化の中の日本文化研究を考える 日比 嘉高 (日本名古屋大学准教授)

論文発表

- 王 憶雲 (淡江大学助理教授)
「問題文芸」と早稲田派一大正期の自然主義への視点
- 黄 佳慧 (文藻外語大学助理教授)
近世初期における詩題俳諧の発端—『みなし栗』から『あら野』へ—
- 山下 明昭 (日本香川大学教授)
複合辞「となる」の習得支援—認知言語学からのアプローチ—
- 譙 燕 (北京外国語大学教授)
現代中国語における日本語借用語の受容状況と借用形式について
- 曾 秋桂 (淡江大学教授)
エコクリティシズムから読む有吉佐和子『複合汚染』
- 趙 宣映 (韓国培材大学校副教授)
日本語教育における川柳の活用に関する一考察
- 早矢仕 智子 (韓国大真大学校助教授)
日本人大学生との交流学习実践—韓国学習者のアンケート調査の分析を中心に—
- 施 建軍 (北京外国語大学教授)
中日同形語辞書における中日間意味用法相違の描写について
- 関 丙勳 (韓国大田大学校教授)
韓国における日本古典と現代メディア—古典教育を中心に—
- 簡 曉花 (中華大学教授)
『現代大家武士道叢論』における佐藤対浮田論争に関する一考察
- 魏 志珍 (中華大学助理教授)
外来語の学習と指導に対する日本語教師のビリーフ—台湾の大学日本語教師を対象に—
- 小針 浩樹 (輔仁大学助理教授)
コピュラ文と助詞「こそ」の関係
- 戸田 一康 (真理大学副教授)
水上瀧太郎の『山の手の子』—移動する〈私〉—
- 奥村 訓代 (日本高知大学教授)
日本語教育の底辺を広げる—方法の模索
- 王 怡人 (東海大学助理教授)
学習者の目線から見たスキル向上を目標としない
コミュニケーション授業—PAC 分析による聞き取り調査から

- 坂元 さおり (輔仁大学副教授)
船戸与一論—ハードボイルド・ミステリーが描く〈台湾〉—
- 荒木 晴香 (世新大学助理教授)
台湾の自然・文化遺産に関する観光人類学的研究
—日本の世界遺産研究からその展望を探る—
- 伊藤 龍平 (南台科技大学助理教授)
日本統治下台湾の昔話集編纂事業—国語教育から郷土教育へ—
- 東寺 祐亮／張 晨迪 (日本九州大学専門研究員/博士後期課程在籍)
日本語と中国語の比較相関的解釈の成立条件
- 落合 由治 (淡江大学教授)
表現史から見た日本語文章表現の発達—ライトノベルを中心に—
- 沈 美雪 (中国文化大学副教授)
台湾の大学教育における日本サブカルチャーの講義および研究
—社会との連携を考えつつ—
- 山田 実樹 (世新大学助理教授)
日本統治期台湾の初等国語教科書における一人称代名詞
—第1・3・5期を対象として—
- 呉 秦芳 (真理大学副教授)
日本人母語話者の談話標識—「みたい」の一考察
—意味論、統語論、語用論、ポライトネスの観点から—

ポスター発表

- 林 淑璋／薛 芸如 (元智大学助理教授)
台湾人初級日本語学習者向けの多読授業における指導教員の役割について
- 黄 馨儀 (中国文化大学助理教授)
メディア社会論を取り入れた「日語翻訳(日訳中)」教材の応用
- 頼 衍宏 (静宜大学副教授)
国宝「銅造薬師如来坐像」光背銘続攷
- 簡 聖雅 (輔仁大学日本語文学科修士課程)
日本語における色彩語の研究—翻訳データベースの用例を中心に—
- 曾 韋銘 (輔仁大学日本語文学科修士課程)
台湾における日本文化の受容に関する考察—日本の顔文字を例に—
- 楊 文艶 (輔仁大学日本語文学科修士課程)
前接辞についての研究—「新」と「再」の比較

